

10379

口口大「第5波」

## 「自宅療養」でなく「放置

新型「コロナウイルス感染症の「第5波」では医療にかかりず自宅で「くなる人が相次ぎました。悲劇を繰り返さないために」と遺族会が会を設立。名前は「自宅放置死遺族会」。オミクロン株が広がっている今、「第6波」に向け何が必要かを聞きました。

「政府は『第5波』の検証時(73) = 同 = を「へじました」とまだしていません。遺族のた。

国会共同代表の西里慶子さん  
がコロナ陽性と確  
認されたのは昨年8月8日。  
大動脈解離を患い血圧が高  
いため当初から「入院したい」  
と語ります。2021年8月  
13日ご父の西里國徳さん(当

「自宅放置死遺族会」共同代表  
さいたま市 西里 優子さん(27)

と訴えました。病院の看護師は「心地悪くないですか? 保育所からの連絡を待つ」とおっしゃりました。

一人ひとりの死と  
政府は向き合つて

「迷走筋のせ」やれり  
いの止、されど迷走筋  
の脈筋を留めし程やがつ  
た。撫桂部語曰可也む「大丈  
未だも、いひてよる」も當ら  
かむだわゆる。眞理あんから  
は「一」心づかひの脉筋だ  
は「迷走筋」ドナ!  
(2回目)(14)



探偵小説から送られた手紙

かが。急いで東家に向かう  
と、わざわざ教諭室に顔を  
出で連絡してくるひるいりだ。こ  
た。どうせと手帳から出で  
「アハ、慶子来たよ。大本  
だよ。腰痛いたね」と話んだ  
ところが。

され、その夜に死」が確認されまし  
た。父だけれど家族にみ  
とめられず、火葬にも立つか  
に止められました」と  
梅谷みます。

# コロナ自宅放置死遺族会

## 一面のつづき

離れて飼かせるなどして

一犬メーカーだった西里

昌徳さん。動物好きで野

良猫を保護したり、飼っ

ている動物の名を一緒に

決めたりしました。

娘の優子さんはママホ

を取り出で、動画を見せ

てくれました。公園で近

寄ってきた猫を優しくな

れる昌徳さんの姿が。

後悔が募り、沂へ怒

話して心和らぎ

「はじめられていた私を  
むかうと塾に来たことも  
あります。おつました。懇意深い人

「父は痔病があつだけ  
れど、手術をしてからは

本当に元気で。一緒に旅

行をするなどいつも親孝

行をしたかった」。声を

震わせながら語ります。



西里昌徳さん（提供写真）

# 命が助かる体制を

りをぶつけたらよいのかわ  
からなかった優子さんは、知人を通じ、同じよ  
うに弟を亡くした大阪府の女性と出会いまし  
た。

「保健所の機械的な対応だと耐え切れなかつた。でも、保健所だけが悪いのではなく、五輪開催を決めたり、この仕組みをつべりたりした政府に原因があるのかない」。話すことで、心が和ります。気持ちの整理ができるまし

た。女性と遺族会をつけました。週族同士の交流や情報交換など試行錯誤をしながら進めています。同じ経験をした人は一步前に進むための手段でもいいから、独りで悩みを抱えなくて、私たちを頼ってほしへます」

2021年7月。感染者が増え止を求める声を上げます

が広がったにもかかわらず、政府は東京五輪・パラリンピックを強行しました。昌徳さんが「こんなに8月13日には一日の新規感染者が2万人を超えていました。コロナが猛威を振るう中、政府が出した「廻船回遊療養」の方針は、多くの在宅死亡を招きました。

## 風化させぬため

「検証は、『いじが悪かったから次は、もうしよう』と、自分たちの非を認めて初めてできます」と優子さん。政府が検証をして、コロナにかかるも医療を受けられ、命が助かる体制つべりを求める

人はいます。人は時間がたつと必ず忘れてします。でも命が軽んじられた事実を風化させない今まで